

51歳の時、交通事故で右肩を骨折、レントゲン写真に右肺の影が映り、肺腺がんと診断され、上葉切除手術を行いました。大変だったけれど、リンパへの転移もなく、初期で発見できて不幸中の幸いだったと、喜びました。術後三週間で仕事に復帰し、迷惑をかけた分をとり返そうと、一生懸命仕事をする毎日でした。

半年後に再発。大小四個(4cm)のがん、心臓に水も貯まり、手術はもはや不適で、転院し、放射線、抗がん剤治療となりました。

原発のときは「切れば治る。」と、なんとか平常心でいられたのですが、再発を告げられた時には、本当に深くて暗い底なしの穴にひきずり込まれてしまう様でした。手術後無理を重ねてしまった後悔。大好きな仕事も失ってしまう。何より家族に心配をかけ、負担をかけることになる。五年生存率20%以下という数字が頭から離れず、なんで私だけが……。家族の前では頑張っ、「暇つぶしにパズルしてるんよ。」と笑顔でいるのですが、夜一人になると涙がでました。

そんな中、病院にある展望風呂に行きました。残雪の比良山や琵琶湖、湖西の美しい自然や街並みが広がり、身体が温まるにつれ、鬱々としていた気持ちが慰められました。あの山は明日もそこにあるし、あの湖もそこにある。あのたくさんの屋根の下では、たくさんの人が泣いたり笑ったりしているんだな。私みたいながんの人もいるんだろうな。自然の営み、人の営みは、穏やかで、懐かしく、切なくて、温かいなあ……。と。

読んでいたがん体験記で“橋をかける。近い未来、遠い未来に向かって夢を描き、心の中に橋をかける。そこに至るまで頑張ろう。そして、たどり着いたら、また橋をかけ、その橋を一生懸命わたっていこう”と書いてありました。

私も、胸の中にがんがゴロゴロあるけれど子供や夫、母親のためにも頑張ろう。めげていないで、すてきな楽しい橋をかけようと、思いついた唄に歌詞をつけて、一人だけの大浴場で、大きな声で歌いました。

♪ 一月は正月でがんが治るぞ

※治る治る治るぞ がんが治るぞ

二月は梅見でがんが治るぞ ※繰返し

三月は実家へ行ってがんが治るぞ

四月は花見でがんが治るぞ

五月は温泉行ってがんが治るぞ

六月はオペラ観てがんが治るぞ

七月は蓮の花見てがんが治るぞ  
八月は花火でがんが治るぞ  
九月はお月見でがんが治るぞ  
十月は星を見てがんが治るぞ  
十一月はもみじ狩りでがんが治るぞ  
十二月はおそば食べてがんが治るぞ  
(ビビディバビディヴのメロディで)

あれから一年半、がんは小さくなり、外来で抗がん剤治療を続けています。働いて社会とつながりたいという夢は、心の中でずっと温めています。子供達の元気と笑顔をもらいに絵本の読み聞かせのボランティアに行ったり、季節の風に吹かれに、里山に登ったりしています。

胸の中のがんに、「どうぞ、あばれんとおとなしくしててね。」となだめながら、今日に続く明日があることを信じて、ささやかな毎日の積み重ねができることに感謝して、今日もお風呂で歌っています。

